

観光立国の実現は地方(地域)から

も改革へー

「国内旅行」今年の課題は

出首者

- JTB社長 **高橋 広行氏**
- KNT-CTホールディングス社長 **丸山 隆司氏**
- 日本旅行社長 **堀坂 明弘氏**
- 東武トップツアーズ社長 **坂巻 伸昭氏**

司会 弊社編集長・森田淳

17年の旅行市場を回顧

2017年の国内旅行は大きなイベントもなく、需要の盛り上がりに欠ける1年だった。大手旅行会社では、OTAの台頭やネット化、個人化などの環境変化を受け、経営改革を進める動きが目立った。年明け、18年はどんな1年になるのか。また、どんな1年にしなければならぬのか。旅行業主要4社の社長に語っていただいた。

【東京のホテル椿山荘東京で】



堀坂氏

近畿日本ツーリスト関西に本社。今年4月には、首都圏を近畿日本ツーリスト首都圏、関東圏を近畿日本ツーリスト関東へと分社する。分社の理由の一つは、KNTが団体旅行を、KNT個人旅行が個人旅行を担っていたが、意思の疎通が難しく、法人のお客さまから家族旅行を依頼されても、個人の方へつながらないという現実があったり、地方公共団体からも誰と話をすればよいか分からないという話が出ていたため、こうした問題を解決しなければいけないと考えていたため。一方で既に分社していた地域4会社では、団体と個人の連携が図られ地域総合旅行会社としての成果が出てきている。このため首都圏、中部圏、

前年並みだったが、収益面で厳しさを強いられた。一番苦戦をしたのが個人旅行。団体旅行は全体的には増えたが、大型のMICEやB2Mなどはやはり競争が激しい。インバウンドも追い風になってはいるが、それを合わせたビジネスになかなか結びついていけなかった。新計の中で地方創生を四つの収入の柱として構えたが、まだ端緒にすぎない。地域との共生というところで出向者を積極的に出して、新たなビジネスモデルとしての萌芽は見られた。一方で、旅行業が喚起されるイベントがない年だったが、赤い風船が45周年を迎えたのを契機に、いくつかのテーマを追い求めることにはできた。

坂巻 だいたい最後になると言うことがなくなる(笑)。基本的にはイベントの少ない1年(1年)のスタートしたが、ほぼ前年並みという感じ。当社の特殊なところとして昨年は、日光地区への東武グループとしての投資が多かった。新型特急「ライオン」、そしてSL「天橋」。中禅寺湖遊覧船は久しぶりに新遊覧船を導入した。そういった影響もあって栃木、群馬の商品は伸びてきている。栃木、群馬に対してこれからの取り組みについて、今後のスタートの1年になった。

この1年を総括すると、旅行の価値観を再考させられた1年だった。四季島、瑞風といった豪華列車が出てきて旅の価値観を再考させている。それとこれとでなかなか日本人に馴染まなかったクルーズについても、海外だけではなく、国内のクルーズ需要もたいへん喚起されています。もう一つは、逆の面と申しているが、貸切りバスの関係も含めて安心、安心に対する価値観。旅業がこれかものように無形の財産を出しているかをも一度考える時期にあった1年だった。



高橋氏

17年いろいろな出来事があった。業界全体とそれぞれの会社とととのような1年だった。高橋 旅行需要につながる大きなイベントが何もない年だった。国内旅行は天気に例えると全体的には「薄曇り」。集中豪雨などで時々大荒れ。台風はだいたい大きなダメージを受けた。海外旅行はマーケット全体は拡大しているのだが、まだまだ快晴とまではいかない。訪日旅行は相変わらず「晴朗」。ただし、われわれのエージェントにとっては「波高し」。なかなか日本の旅行会社に恩恵がわたっていないというのが実態だ。JTBの国内旅行の取り扱いはほぼ前年並み。トピックス的に大きかったのはJR東、JR西のクルーズトレイン「四季島」瑞風のデビューが非常にセンセーショナルで、豪華・高級志向の流れは良い効果を生んだ。JTBではラッシュアリアーパスをデビューさせたのだが、これも好評だ。こういう高志向の旅行ニーズは依然として根強いものがあると改めて認識した。レゴランドも爆発的に需要を喚起できたと言えな

い。だが、今年、ホテルを牙

ライオンは、これには期待できそう。プレミアムライオンはまだ定着するには時間がかかりそう。丸山 私は6月20日に社長

りはないが、国内旅行についてはクラブツーリズム(以下、CT)はまあまあ成績で、近畿日本ツーリスト個人旅行(以下、KNT個人旅行)の方は前年があまりに悪かったので多少良くなって微増といったところ。今、われわれは「集中と分散」という基本方針のもとに事業構造改革を一生懸命やっている。近畿日本ツーリスト(以下、KNT)とKNT個人旅行においては、既に分社済みの北海道、東北、中国四国、九州の地域会社4社に加え、昨年10月、中部圏を近畿日本ツーリスト中部、関西圏を

関西圏の都市部でも分社化をやろうと考えて、事業構造改革に必死になっているというのが、昨年の私の感想だ。堀坂 全般的なことは高橋さんとおっしゃった通り。私も丸山さんと同じく一年前に鉄道業から来て、前任から受け継いで前の中長期経営計画をいかに達成し、次のステップというところで、新しい中期経営計画を自ら作ってスタートした年だった。考え方としては前中計を受け継いだものとなるが、将来に向けてお客さま、地域、社員、株主、この四つの価値向上に取り組んできた。

国内旅行の取り扱いについては

りはないが、国内旅行についてはクラブツーリズム(以下、CT)はまあまあ成績で、近畿日本ツーリスト個人旅行(以下、KNT個人旅行)の方は前年があまりに悪かったので多少良くなって微増といったところ。今、われわれは「集中と分散」という基本方針のもとに事業構造改革を一生懸命やっている。近畿日本ツーリスト(以下、KNT)とKNT個人旅行においては、既に分社済みの北海道、東北、中国四国、九州の地域会社4社に加え、昨年10月、中部圏を近畿日本ツーリスト中部、関西圏を

関西圏の都市部でも分社化をやろうと考えて、事業構造改革に必死になっているというのが、昨年の私の感想だ。堀坂 全般的なことは高橋さんとおっしゃった通り。私も丸山さんと同じく一年前に鉄道業から来て、前任から受け継いで前の中長期経営計画をいかに達成し、次のステップというところで、新しい中期経営計画を自ら作ってスタートした年だった。考え方としては前中計を受け継いだものとなるが、将来に向けてお客さま、地域、社員、株主、この四つの価値向上に取り組んできた。

国内旅行の取り扱いについては

りはないが、国内旅行については

りはないが、国内旅行については



日本の美しく素晴らしいおもてなしを未来へ、そして世界へ
2018年2月14日 開業50周年を迎えます。
伊豆 浮山温泉郷
ABBA RESORTS IZU - 坐漁荘

